

新型コロナワクチン 2回目接種 始まる

NEWS CIT

2021
ニュースシーアイティ **6・7合併号**

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2、3面 令和2年度大学決算/学生共済会予算、決算
- 4面 宇宙汚さない固体燃料実験に成功/高砂さん実験に貢献/AWSロボコン準優勝/PM国際資格に26人合格
- 5面 フジコー会長80歳で博士号/高校教員に入試説明会/上田准教授に教育賞/長瀬教授を光協会が表彰/高度技術者育成プログラム発進
- 6面 八街で皆既月食観望会/PPA総会書面で決議/J Aいちかわから米2ト



ワクチンの2回目学内接種を受け付けるスタッフたち(津田沼校舎で)



接種後の経過観察で、リラックスを促す音楽が流れるなか待機する学生たち

1回目1万1300人へ無事に

新型コロナウイルスワクチンの2回目の職域接種(大学拠点接種)が7月23日、本学津田沼・新習志野の両キャンパスで始まった。武田/モデルナ社製ワクチンは4週間隔で2回接種することになっているが、本学では1回目を千葉県内で最も早い6月25日から開始し、7月5日までに1万1300人の接種を終えていた。

先の本紙号外のとおり、ワクチンの学内接種は初の取り組みとあって手探り状態の中、大学の総力を結集して実現させた。その結果、千葉県内の教育機関ではいち早く1回目接種を終えることができた。さらに2回目の接種を始めることになった。

職域接種で使用するモデルナ製ワクチンは、短期間に希望が殺到したため国の供給が追い付かず、6月24日以降、新規受け付けがストップした。しかし、本学では、いち早く関係省庁と粘り強く何度も交渉し、この結果、予定ワクチンの半数が7月15日に到着した。21日には最終分が納品され、無事に冷凍庫に収まる様子を瀬戸熊修理理事長はじめ担当者が見守った。

当初、接種対象は本学学生・教職員と、習志野市立の幼稚園、小、中、高等学校などの教育関係者ほか、としていたが、その後、習志野商工会議所関係者や習志野市内の県立高等学校、習志野特別支援学校の教育関係職員などへ接種枠を広げ、最終的な接種人数は1万1300人となった。7月23日に始まった2回目接種では、国から受け取るワクチンの量を調整し、廃棄ゼロを目指してスタート。今後、8月2日までにすべての接種日程を終了する予定だ。会場で学生たちは「2回目を打って、ほっとしています。副反応のことで不安もありますが、それ以上に感染予防に効果があると期待したいです」(情ネ3年)、「2回目接種後に体調不良になる人が多いと聞いているので、考慮して明日は予定を入れずにいます。今年の夏は実家に安心して帰れるかな?」(PM2年)などと話していた。

聖火のセレモニーに 瀬戸熊理事長が参加



車椅子の聖火ランナー・織田友理子さんから聖火を受け継ぎ記念撮影

オリンピックの聖火リレーは都内に入ったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため公道での実施は軒並み中止となった。7月19日に、ランナーが走らずに聖火を灯してつなぐ「トーチキス」のセレモニーが荒川区の南千住野球場で行われ、本学の瀬戸熊修理理事長が参加した。瀬戸熊理事長は、東京スカイツリータウンキャンパスのある墨田区で聖火を掲げて走る予定だったが、セレモニーでは飾り江戸川↓墨田↓荒川と各区を走る予定だったランナーたちと順番に聖火をつないだ。本学は「世界文化に技術で貢献する」建学の精神のもと、東京スカイツリータウンキャンパスで世界初の「宇宙からの流星観測」計画や、福島第一原発に投入した災害対応ロボットを一般に広く公開している。一方、スポーツもこれまでのオリンピック大会で回を重ねるごとに、アスリートたちのためまざる不断の努力に加え、科学技術の目覚ましい発展を生みだしている。瀬戸熊理事長は「スポーツにも科学技術で貢献する」気持ちを伝えたい、と聖火リレーに参加した。

新実験棟を建設 津田沼で地鎮祭



津田沼校舎の(仮称)新実験棟の地鎮祭が7月10日、建設予定地の8号館東側で行われた。式には瀬戸熊修理理事長、松井孝典学長はじめ教職員が出席したほか、設計の(株)河建築設計事務所、施工の五洋建設(株)、設備の東光電気工事(株)、新日本空調(株)から工事関係者が出席し、工事の安全を祈願したII写真⑤。



新実験棟II完成予想図IIは鉄骨造り3階建てで、延べ床面積22887平方メートル、高さ約17メートル。都市環境工学科、建築学科などの実験室の機能を移設し、構造材料実験室、水理実験室、土質実験室、力学実験室などが配置される。来年6月末に完成し、同年9月から供用開始予定。

対応
 (13) 公的研究費等の監査の実施
 (14) 自己管理型点検評価チェックシステムの実施
 (15) 公益通報制度の充実

7 新型コロナウイルスに関連した本学の対応について

(1) 大学への入構
 入構時に検温所のサーマルカメラによる体温測定及びアルコールによる手指消毒他
 (2) 建物・講義室
 各教室で収容する学生数を座席定員の30%〜50%とする他
 (3) 学生食堂
 飛沫感染防止のため衝立を設置し、十分な座席間隔をとる他
 (4) 授業・研究室
 学生同士の間隔は1メートルを目安に確保他
 (5) コンピュータ演習室
 十分な座席間隔をとるよう使用できるパソコンを制限他
 (6) 学生寮
 入館時に除菌ブースでの除菌及び寮出入口での検温・消毒他
 (7) 簡易PCR検査の実施
 (8) 学費・学生生活などへの学生支援
 (9) その他

6月30日に秋生田文部科学大臣が来校し、本学の新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについて視察され、「大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例」として文部科学省ホームページで公表

8 財務の概要

(1) 教育活動収支
 ①教育活動収入計171億7200万円(予算比84.0%)
 0万円増 前年度比5億6800万円増
 8000万円増
 教育活動収入計は、全ての科目で予算比増となった。

②教育活動支出計156億8600万円(予算比4億2500万円減、前年度比1億2500万円増)

資金収支計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	14,379,000,000	14,383,632,000	△4,632,000
手数料収入	280,100,000	282,986,765	△2,886,765
寄付金収入	374,300,000	375,418,000	△1,118,000
補助金収入	1,122,000,000	1,124,918,916	△2,918,916
資産売却収入	79,000,000	79,024,650	△24,650
付随事業・収益事業収入	430,400,000	443,406,600	△13,006,600
受取利息・配当金収入	504,300,000	510,553,260	△6,253,260
雑収入	559,600,000	592,344,692	△32,744,692
前受金収入	5,160,000,000	6,014,942,912	△854,942,912
その他の収入	8,393,000,000	8,570,326,790	△177,326,790
資金収入調整勘定	△6,273,800,000	△6,407,525,437	133,725,437
前年度繰越支払資金	10,527,500,000	10,527,499,872	
収入の部合計	35,535,400,000	36,497,529,020	△962,129,020

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	7,468,700,000	7,415,308,412	53,391,588
教育研究経費支出	4,316,200,000	4,003,700,568	312,499,432
管理経費支出	998,900,000	937,827,104	61,072,896
施設関係支出	8,000,000	7,768,200	231,800
設備関係支出	850,900,000	813,102,650	37,797,350
資産運用支出	7,194,300,000	8,193,959,258	△999,659,258
その他の支出	3,039,300,000	3,171,882,098	△132,582,098
資金支出調整勘定	△380,300,000	△656,270,558	275,970,558
翌年度繰越支払資金(予備費含む)	12,039,400,000	12,610,251,288	△570,851,288
支出の部合計	35,535,400,000	36,497,529,020	△962,129,020

主な内訳：消耗品費1億1700万円減、奨学生費5億700万円増、委託費8200万円増、受託研究費1億4700万円減
 管理経費1億2500万円減
 主な内訳：旅費交通費2700万円減、広報費3900万円減
 教育活動外支出2億2100万円減
 特別支出1億2600万円減
 (6)基本金組入前当年度収支差額 22億9500万円(予算比6億8800万円増 前年度比12億9500万円増 事業活動収支差額比率12.8%)
 (7)基本金組入額6億6000万円
 (8)当年度収支差額 3400万円の収入超過となった。翌年度の繰越収支差額は、前年度繰越収支差額を合わせると、54億7000万円の支出超過となった。
 (9)今後の課題
 今後も引き続き財務基盤の安定をはかるため、次のような課題に取り組んでいく。

主な内訳：消耗品費1億1700万円減、奨学生費5億700万円増、委託費8200万円増、受託研究費1億4700万円減
 管理経費1億2500万円減
 主な内訳：旅費交通費2700万円減、広報費3900万円減
 教育活動外支出2億2100万円減
 特別支出1億2600万円減
 (6)基本金組入前当年度収支差額 22億9500万円(予算比6億8800万円増 前年度比12億9500万円増 事業活動収支差額比率12.8%)
 (7)基本金組入額6億6000万円
 (8)当年度収支差額 3400万円の収入超過となった。翌年度の繰越収支差額は、前年度繰越収支差額を合わせると、54億7000万円の支出超過となった。
 (9)今後の課題
 今後も引き続き財務基盤の安定をはかるため、次のような課題に取り組んでいく。

令和3年度学生共済会予算、決算を承認
 予算
 令和3年度学生共済会予算案は、理事会で協議した結果、異議なく承認された。
 予算の概要は次のとおり
 △収入の部
 ●受取利息
 投資有価証券から発生する利息として250万円を計上した。
 ●積立金取崩収入
 新型コロナウイルス禍に対する学生支援金として3000万円を取り崩した。
 ●前年度繰越金
 4162万4796円を計上した。
 ●委託費
 昨年同様「こころからだの元気サポート」、「暮らしの身近な法律相談」の継続に係る費用として、720万円を計上した。
 △支出の部
 ●給付金
 給付金支出金額は、昨年度141万円だったのが、不測の事態を考慮し、300万円を計上した。
 ●学費貸与金
 学費貸与金支出額は、昨年度777万円程度だったが、今年度は学費納付金貸与金とコロナ禍の学生支援継続のため新型コロナウイルス特別奨学金貸与金として、1000万円を計上した。
 ●委託費
 昨年同様「こころからだの元気サポート」、「暮らしの身近な法律相談」の継続に係る費用として、720万円を計上した。
 ●消耗品費
 災害時の非常用保存食の購入費として、300万円を計上した。
 ●寄附金
 今般の新型コロナウイルス禍に対し全学が一丸となり、継続的な学生支援を行うことが重要であり、更なる支援を行うため昨年度に引き続き、5000万円を大学への寄附金として計上した。
 支出の部では、新型コロナウイルス支援金として1億円を大学へ寄附した。今後とも保険事業の見直しや会員の健康増進につながる支援等充実したサポートができるよう共済会事業の運営に努めたい。
 千葉工業大学共済会も33年目を迎え、会員の学生生活が豊かなものとなるよう、制度の充実を図りつつ、令和2年度も順調に運営されましたことをご報告致します。

令和3年度千葉工業大学学生共済会収支予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1. 会費収入	24,000,000	1. 支払保険料	25,000,000
2. 入会金収入	4,600,000	2. 給付金	3,000,000
3. 受取利息	2,500,000	3. 貸与金	10,000,000
4. 貸付金回収収入	12,000,000	4. 委託費	7,200,000
5. 手数料収入	1,100,000	5. 消耗品費	3,000,000
6. 積立金取崩収入	30,000,000	6. 通信費	50,000
		7. 印刷費	50,000
		8. 会議費	200,000
		9. 支払手数料	400,000
		10. 事務費	50,000
		11. 寄附金支出	50,000,000
小計	74,200,000	小計	98,950,000
前年度繰越金	41,624,796	次年度繰越金	16,874,796
総合計	115,824,796	総合計	115,824,796

令和2年度決算報告書

資産の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
普通預金	41,624,796	共済基金	205,000,000
定期預金	155,000,000	積立金	85,000,000
貸付金	61,303,600	貸付充当金	61,303,600
投資有価証券	300,000,000	学費貸与準備金	165,000,000
		次年度繰越金	41,624,796
合計	557,928,396	合計	557,928,396

令和2年度収支決算書

自 令和2年4月1日 : 至 令和3年3月31日			
I 収入の部			
科目	予算額(①)	決算額(②)	対予算差額(②-①)
1. 会費収入	24,000,000	24,815,000	815,000
2. 入会金収入	5,000,000	4,668,000	-332,000
3. 受取利息	3,400,000	2,994,156	-405,844
4. 貸付金回収収入	16,000,000	18,354,614	2,354,614
5. 手数料収入	1,300,000	1,159,452	-140,548
6. 学費貸与準備金取崩収入	0	0	0
7. 積立金取崩収入	0	110,000,000	110,000,000
8. 当期小計	49,700,000	161,991,222	112,291,222
9. 前年度繰越金	23,622,774	23,622,774	0
10. 当期収入総計(A)	73,322,774	185,613,996	112,291,222

II 支出の部

科目	予算額(①)	決算額(②)	対予算差額(②-①)
1. 支払保険料	25,200,000	24,078,448	-1,121,552
2. 給付金	5,000,000	1,410,000	-3,590,000
3. 貸与金	20,000,000	7,773,750	-12,226,250
4. 委託費	7,200,000	7,178,600	-21,400
5. 消耗品費	6,800,000	2,970,000	-3,830,000
6. 通信費	150,000	14,580	-135,420
7. 印刷費	300,000	42,955	-257,045
8. 会議費	250,000	62,835	-187,165
9. 支払手数料	400,000	279,753	-120,247
10. 事務費	500,000	178,279	-321,721
11. 寄附金支出	0	100,000,000	100,000,000
12. 学費貸与準備金組入支出	0	0	0
13. 共済基金組入支出	0	0	0
14. 積立金組入支出	0	0	0
15. 当期小計(B)	65,800,000	143,989,200	78,189,200
16. 次年度繰越金(A)-(B)	7,522,774	41,624,796	34,102,022
17. 当期支出総計	73,322,774	185,613,996	112,291,222

注: 共済会の会計では、継続的に資金の収支を確認するため、金額がゼロの科目について省略することなく記載している。

宇宙汚さない固体燃料

世界初！ ■ 和田研などロケット実験成功

機械電子創成工学科・和田豊教授の研究室と日油(株)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の3者チームは5月11日、宇宙を汚さないクリーンなロケット推進薬を開発し打ち上げによる性能実験に世界で初めて成功した、と記者発表した。

固体燃料ロケットは通常、液体燃料ロケットに比べ製作・コスト面で有利だが、アルミニウムな



④ロケットに新開発の推進薬を装填し発射準備 ⑤燃焼実験を開始



固体燃料ロケットは通常、液体燃料ロケットに比べ製作・コスト面で有利だが、アルミニウムな燃料を固めるために添加される。金属燃料を抜くと性能が極端に低下するので、高性能でクリーンな推進薬を開発する必要があり。和田研など3者は、ハイブリッドロケットに使用れ、金属燃料や酸化剤なしで大きな熱エネルギーが期待できるポリマー燃料・グ

さらに、和田研が設計した小型ロケット2機(全長約68cm、重さ550g前後)に搭載し3月25日、千葉工大千種グラウンドで打ち上げ実験を行った。その結果、2機ともシミュレーション通りの高度に到達し、急激な加速度が生じる状況でも正常に燃焼することが確認された。

今後は、推進装置を一層小型軽量化して真空環境下での着火特性を評価し、実機に搭載して宇宙空間での実証を目指すとしている。

高砂さん 燃焼実験に貢献

■ 火薬学会で優秀講演賞



宇宙を汚さない固体燃料ロケットの推進薬の開発で、和田教授のもと燃焼実験を繰り返して、貢献したのが高砂民明さん(工学専攻博士後期課程1年II写真)。その内容を「高速度カメラを用いたGAP/AP推進薬の燃焼表面観察」として火薬学会の2021年度春季研究発表会(5月20、21日、Zoomでオンライン開催)で発表し、優秀講演賞を受賞した。

高砂さんは、GAP/AP推進薬の燃焼メカニズムを解明するため、ハイスピードカメラで燃焼表面を観察。その結果、燃焼表面で分解途中の過塩素酸アンモニウム(A.P.)粒子が燃焼表面から吹き飛んでいることを確認した。これはグリッジリアンドポリマー(GAP)が持つ自己発熱分解特性により先行的にGAPが分解。GAPから発生した分解ガスによってAP粒子が燃焼表面から吹き飛ばされていると分かった。

燃焼している5〜40

PM国際資格 26人合格



国際資格証を手にした合格者たち

0.5ミリの粒子を、どうやって鮮明に撮影するかに苦勞した。まだまだ改善の余地があるので、撮影スキルを磨いていきたいという。

高砂さんの話 和田教授の丁寧な指導と研究室仲間の助けがあったので、受賞を思います。博士課程初年での受賞をうれしく感じます。今後は一層深みのある研究をし、磨きのかかった発表ができるよう精進します。

なった常野一樹さん(P.M.学科4年)は「長時間のオンライン講座でしたが、西田先生のおかげで集中力を保てました。資格取得を通して得られた知識を卒論や進路開拓に生かしたいです。」

1年生で挑戦し合格した長廣悠真さん(同2年)は「前期授業の知識の助けで国際ライセンスまで取得できました。」

デザイン学科で初の合格者となった秋山凛太郎さん(4年)は「デザイン学科でも製品・サービスの開発などで想像以上にPMの知識と共通点があると感じました」と語った。

特別教養講座を主催した田原広紀P.M.学科准教授は「初のオンライン講座で合格率が下がると覚悟していましたが、例年と遜色ない実績になりました。西田先生と受講生の粘り強さが実を結んだ結果です」と喜んだ。

今回の合格者 (順不同・敬称略)

常野一樹、田中基紘、山田聖雅、秋山凛太郎、石橋燎、島村隆誠、小澤快斗、伊藤優介、内山ひかる、金澤颯、梶川雅晴、岡田悠作、北田千香子、長廣悠真、高橋弘暉、内間愛、丸山桃佳、佐藤諒斗、藤中有菜、大熊一斗、和泉蔵馬、中川裕菜、坂井優希人、富田青深、篠崎智哉、入江慧樹

AWSON 今年準優勝

■ 末口ボ4人チーム

学生たちが自律移動ロボットで自動運転と人工知能(AI)の技術を競う「AWS Robot Delivery Challenge」(通称AWSロボコン)アマゾン・ウェブ・サービスジャパン主催)の第2回大会が5月11日開かれ、末口ボテイクス学科・上田隆一研究室の池邊龍宏さん、高橋秀太さんと、林原靖男研究室の岩井一輝さん・春山健太さんの計4人が組んだチームがカスターマイズ部門で準優勝した。

初回大会はコロナ禍の昨春秋、オンラインで開かれ、本学チームが優勝。池邊さん、高橋さんは前回の優勝メンバー



末口ボ4人チーム。(左から)春山さん、池邊さん、高橋さん、岩井さん

で、ほかの2人が入れ替わって今大会に挑んだ。今回もリモートで、全国から57チームが参加。予選を経てAWS提供のアプリケーションを独自改良して競う「カスターマイズ部門」▽提供の仕様のまま機能をどう生かすかの「初心者部門」に分けられた決勝ラウンドに5チームずつが進出。コースの広さは昨年の2倍に拡大され、2チームずつが激突するトナメント方式で戦った。カスタマイズ部門の決勝ラウンドに進出したのは本学、豊田高専、中央大、宮崎大、芝浦工大。各校は共通の小型自律移動ロボットを、ミニチュアの街中を走らせ、指定された12個のチェックポイントを通って得点を獲得する。自律ロボットは遠隔操作とAIによる自律動作に対応しており、各チームはそのロボットを動かすための独自アルゴリズムを競う。

また、自律移動には周囲の状況をセンサーで検知して、その情報をもとに全体地図を作成し、自分がいる正確な位置を把握する必要がある。この自己位置推定と環境地図作成を同時に行うSLAM技術の精度がカギになる。

さらに、ロボットの走行経路を制御するにはタイヤの回転角から現在位置を推定するオドメトリという手法が多く使われるが、それでも理論と現実のギャップは少なくない。理論上のマップとロ

ボットの現実の位置との間に生じるブレをいかにして補正するかが、勝敗を左右する。

本学チームは緒戦で中央大チームを退けて、対「豊田高専」の決勝戦に臨んだ。序盤、制限時間を6分以上残す無駄のない走りを見せたが、障害物のトラックに接触してタイムを大きくロス。ポイントのラインをきれいにトレースするタッシュを見せ、以後も無難に通った豊田高専チームに惜敗した。

3時間で150問に回答する。受験資格は、実務経験を1500時間以上積み重ね、23時間の公式研修を受講することが条件。このため本学では毎年7、9月にPPA特別教養講座の支援のもと、学内で9月4日の短期集中研修を開講していたが、20年度は感染症予防のため全編オンラインで実施。講師は本学P.M.学科1期生でデザイン学科の西田絢子准教授が務めている。20年度合格者第1号と

卒業生 80歳で博士号

「溶接・溶射のフジコー」会長



本学OBで(株)フジコー(本社・北九州市)会長の山本厚生氏(昭和39年、金属工学科卒)が今年3月、80歳にして九州大で博士(工学)の学位を取得したことが分かった。

フジコーは山本氏の父親が創業した溶接・溶射・特殊製造などに定評のある会社。山本氏は本学卒業後、親元で製鋼事業に携わり、超密着溶射(第一回もの)への大賞(優秀賞、2005年)や光触媒コーティング技術で「溶接・溶射のフジコー」のもとを作った。

学位論文は「連続溶射法による高機能複合材料開発に関する研究」。鉄鋼製造時に使われる溶射部品には高い機能が必要とされる。特に圧延工程に用いられる圧延用ロールと搬送ローラーなどは、圧延製品と直接接触するため、耐摩耗性や耐食性、強靱性の向上が強く求められてきた。

山本氏は、強靱な鍛鋼を芯材とし、高合金系白鉄を連続的に溶融・被覆する新しい連続溶射法(CPC法)を開発し、従来材料に比べ飛躍的な耐久性向上を達成。さらに安価で利用価値の高い合金設計とプロセス最適化を行い、ロール再生技術、リサイクルシステム構築やCO₂削減にも寄与する成果を挙げた。

一方、フジコーの光触媒コーティングは、光が当たると活性酸素を発生させる触媒(酸化チタンなど)を溶射で皮膜形成する技術。菌やウイルスを死滅させ消臭効果に励ましていた。

高校教員に4年度入試説明会

高校教員を対象に、本学の令和4年度入試の説明会が6月1日に東京スカイツリータウン、6月4日に津田沼キャンパスで開かれ、2日間で計120校124人の進路指導担当教員たちが参加したII写真。同時に新型コロナウイルス対策として津田沼での説明会をライブ配信、全国で102校105人が視聴した。

2回の説明会では日下部入試広報部長が前年度を振り返り、新型コロナウイルス対策でいち早く対面授業を実施したことや入試結果、就職状況や退学者・留年者抑制への取り組み



「先生との関係性が見られよかった」「有意義に大学生活を送っている感じがうかがえた」「プレゼン能力の高さに驚いた」との声が聞かれた。

終盤では、大川茂樹・入試委員長(副学長・未来ロボティクス学科教授)が昨年度の詳しい入試結果や、令和4年度の新設型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入試試験、大学入学共通テスト利用入試試験の要点などを説明。入試改革初年度にあたり受験生が安心して入試を迎えられるよう配慮したこと、また進学支援などについて話すと、高校教員たちは熱心に聞き入っていた。



上田准教授に機械学会が教育賞

確率ロボティクスで貢献

日本機械学会は、本学の上田隆一・未来ロボティクス准教授II写真

イクス学科准教授II写真IIが行った①「確率ロボティクス」(2007年・ROBOT books)の翻訳出版②「詳解確率ロボティクス」(19年・講談社の出版)と、解説動画などのウェブ上で公開の2つの業績に対し4月22日付で2020年度教育賞を贈った。オンラインで発表された。

上田准教授は、確率ロボティクス分野の国内の第一人者で、理論や実装をロボカップ・サッカイやつくばチャレンジなどに生かしてきた。「確率ロボティクス」は米スタンフォード大のスラン教授、ワシントン大のフォックス准教授、独フライブルグ大のバーガード教授らの共著「Probabilistic Robotics」の翻訳



長瀬教授を光協会が表彰

光コネクタ開発などリード

レーザーや光ファイバーなど光技術を応用した

「光コネクタ及び関連する国際標準化プロジェクトの委員長などを務めたほか、光コネクタ関連の標準化事業への長年にわたる貢献」としている。

今回の表彰者は2010年以降の10年間を中心に28人が選ばれた。

光協会は授賞理由を「光コネクタ及び関連する国際標準化プロジェクトの委員長などを務めたほか、光コネクタ関連の標準化事業への長年にわたる貢献」としている。

東京で開かれた40周年記念式典で表彰した。

長瀬教授の専門は、光ファイバーを用いた精密計測技術や、微小領域の変形に配慮した精密機構デバイスの設計など。特に次世代光通信でマルチ

宇宙産業支える高度技術者

本学育成プログラム発進

本学は4月21日、東京スカイツリータウンキャンパス(東京都墨田区)で、2021年度から日本宇宙産業の基盤を支える高度技術者の育成プログラムを始めること記者発表した。

記者発表で松井孝典学長は「日本には体系立った宇宙教育プログラムがない。国の宇宙政策委員会の委員長代理の立場で提言してきたが、なかなか実現していない。そこで今回の教育プログラムを考案したと説明した。

当初は関連学科から希望者を募って始めるが、将来的には「宇宙産業を支える高度技術者育成コース」など新たな学科の設置も視野に入れ、育成プログラムを終了した学生らの就職支援を念頭に宇宙に関わる企業との連携強化を図っていく。

また、地域の小中高校などが宇宙を入口に理工系への関心を高めることができるような教育プログラムを検討するという。宇宙産業で現在、人材

が「一番足りないのは、計画や設計図に基づき実際に安定して動く衛星やロケットをきちんと作り上げる人材。03年以降、各国で、1辺が10センチの立方

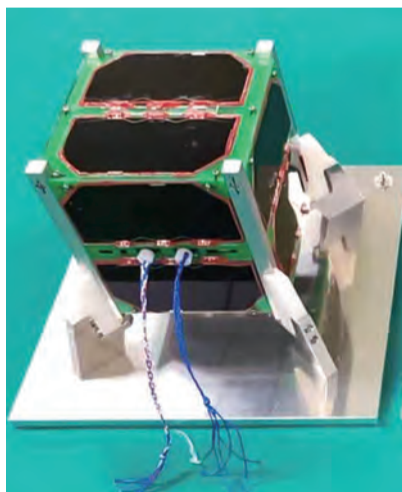
体サイズで重量約1キログラムの「キューブサット」と言われる超小型衛星が多数打ち上げられるようになり、一部分野では大型衛星にも匹敵する性能を

示すようになった。量産すれば1機あたりの製造・打ち上げコストも低下するので「コンステレーション」と呼ばれる複数衛星を使った超小型衛星網の構築が世界で始まっている。

こうした状況を背景に、国内外の多くの企業が、超小型衛星の分野に参入。それを支える高品質な人工衛星の設計・製造・運用を現場で支える技術者の不足が顕在化してきた。本学は「研究開発ではなく、必要な知識と経験を有し、確実に稼働する衛星を安定して製造できる人材を育てる」ことを目標に高度技術者育成プログラムを具体化するにしようとしている。

一方、1・2年生には伍サットと呼ばれる、人工衛星を造る前段階としての教育プログラムへの参加体験を提供する。伍サットとは衛星に見立てた伍サイズの飛行ロボットの。伍サットそのものは宇宙で運用することはないが、実際に宇宙に到達するキューブサットを作る前段階として作成を経験してもらうという。

製作予定の超小型衛星のひな型



令和3年度 PPA地区懇談会会場

Table with 4 columns: 地区 (Region), 開催日 (Date), 会場名 (Venue Name), 電話 (Phone Number). Lists various locations across Japan for the PPA regional discussion meeting.



皆既月食 八街で観望会

秋田谷上席研究員が解説

千葉県八街市教育委員 会と本学惑星探査研究センター(PERC)は5月26日、同市内の小・中学生と保護者を対象に皆既月食の特別観望会を開き、その様子をYouTubeでライブ配信した。雲で皆既月食は見えなかったものの、200人を超える人々が参加。天文シミュレーターを使った解説などに驚きや感動の声が寄せられた。観望会は、本学と同市が2019年に結んだ包括連携協定の一環として初めて実現し、PERCの秋田谷洋・上席研究員が解説を引き受けた。皆既月食は、太陽と地球と月が一直線に並び、満月が地球の影に完全に覆われる現象。国内で見られるのは3年ぶり。月が1年で最も地球に近づくスーパーパームーンと重な

PPA総会 書面で決議

会長に石上氏 個別で進路面談も

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2021年度PPA総会は集合形式での開催を中止としたが、6月26日、会員からの議案回答書に基づき書面決議によって無事終了した。議事は、令和2年度の事業・決算・監査報告および令和3年度の事業計画・予算案などで、さらに会長以下の新役員と評議員が選任された。令和3年度役員は次のとおり(敬称略)。▽会長 石上藤吾(末来ロボティクス学科3年)▽副会長 瀬尾千里(末来ロボティクス学科1年)▽副会長 橋本和明(応用化学科教授)▽監事 澤井謙一(フロッジェクトマネジメント学科3年)▽監事 村上利幸(経営情報科学科准教授) またこの日は、進路決めの日程で開催する予定の個別面談も実施した。今後、PPA地区懇談会を別表の日程で開催する予定。



学生たちに米を!

JAいちかわが2トン

JAいちかわ(時田正一・代表理事組合長)から本学に6月7日、柏市田中地区で生産された「田中産こしひかり無洗米」2トンが寄贈された。「新型コロナウイルスの感染拡大でいろいろ影響を受けている学生を元気づけるために役立てて」と贈られたもの。米は津田沼・新習志野の両キャンパスと学生寮の食堂で活用された。両キャンパスの学生食堂CITサービスは6月21日、25日をサービス期間とし、ご飯類を含む食事メニューを50円引きで提供した。対象メニューの一番人気は「大ランチ。通常350円が300円!定番カレーは50円が200円、おにぎりも1個100円が50円に。」学生たちにとっては「アルバイト数が減っ



食堂で50円引きメニューを選ぶ学生たち

同窓会



毎日の生活に大きな変化はなくても、クスッと笑えるだけで少し幸せな気持ちになる。これもその一つ、「18歳と81歳の違い」。どうも数年前に「笑点」でお題になったらしい。その内容は、「道路を爆走するのが18歳、逆走するのが81歳」「ドキドキが止まらないのが18歳、動悸が止まらないのが81歳」「偏差値が気になる18歳、血圧・血糖値が気になる81歳」などなど、分かる!というところばかり。これを両親に紹介したところ、相手を呪文のように唱えようとケンカをする気も起きなくなると、夫婦円満にも一役かっているようだ。もともとは知人のブログで知ったもの。手軽にSNSなどで情報共有やコミュニケーションをとるが、やはり同じ空間で共通の話をしたり笑ったりするのが一番だ。毎年春から夏にかけてオンラインキャンパスの時に後輩に会いにくる卒業生たちの「久しぶり〜!」の声や、同窓会総会などで十数年ぶりに大学を訪れた先輩方の「随分立派だなあ!」の声も久しく聞いていない。色々な人が笑顔で集まれる日を待ち望むばかりである。 入試広報部 目良 美代子

四季雑感



本学から歩いていける距離に谷津バラ園があり、毎年、5月の中旬から終わり頃になると満開のバラを楽しみにいきます。谷津バラ園には、バラだけでなく、物理学者アイザック・ニュートンの実家にあたりんどの木々ばかりの奇妙なような日々と担当者はホッとしているというのが本音だ。そんな不安と期待が交差し、また、様々な批判が飛び交う中で開催された東京オリンピック。始まってみれば日本勢が連日のメダルラッシュで、ニュースが流れるたび無条件に嬉しい気持ちになる。SNSなどでも選手たちが頑張っている姿に感動する」と好意的な意見にホッとしてしまう。 オリピック開催前、大好きな内村航平選手が「笑っていたい。シンパルに。演技を終えて着地をした時、笑っていたいです」と、心の底からのオリンピック目標を語っていた。アスリートたちが会心の演技のあと見せる笑顔は、コロナで疲弊する社会にさす一筋の光になる。そんな希望を胸に最後まで応援したい。 入試広報課 大橋 慶子

編集だより



新型コロナウイルスの感染者は増加の一途をたどり、先行きが見えない状況に不安を抱えている方は少なくないと思う。本学では、短い準備期間にもかかわらず6月25日から無事に職域接種を開始し、希望者に接種の機会を提供でき本日に喜ぶが、やはり同じ空間で共通の話をしたり笑ったりするのが一番だ。毎年春から夏にかけてオンラインキャンパスの時に後輩に会いにくる卒業生たちの「久しぶり〜!」の声や、同窓会総会などで十数年ぶりに大学を訪れた先輩方の「随分立派だなあ!」の声も久しく聞いていない。色々な人が笑顔で集まれる日を待ち望むばかりである。 入試広報部 目良 美代子